報道資料

TBSテレビ総務局広報部
03-3746-1111
2012 **年** 4 **月** 2 **日**

TBS テレビ、TBS ラジオ＆コミュニケーションズ
2012 年度合同入社式

4 月 2 日午前 10 時から、TBS テレビ、TBS ラジオ＆コミュニケーションズの 2012 年度合同入社式が行われ、TBSHD・TBS テレビ井上会長、TBS テレビ石原社長、TBSR&C 入江社長ほか幹部が出席、新入社員の門出を祝福しました。

■ 両社の新入社員数

TBS テレビ 26 名（アナウンサー1 名、技術 3 名、一般 22 名） TBSR&C 2 名 計 28 名

■ 石原社長訓話

皆さん、入社おめでとうございます。開花の遅れていた桜も皆さんを待つように、一斉に咲き始めました。将来を担う清新な皆さんを、TBS の新しい仲間として迎えることができ、大変嬉しく思っています。

昨年は未曾有の大災害が発生しましたが、皆さんの先輩たちは地震発生直後から必死に取材を続け情報を発信し続けてくれました。またいち早く「絆プロジェクト」を立ち上げ、被災された方々の心の傷を少しでも癒やし、元気を出してもらえるような番組を放送し、また募金活動も行いました。1 年あまり経ちましたが、現場の皆さんは様々な形でその努力を今でも続けてくれています。

今日は皆さんにとって放送人、社会人としてのスタートの日ですが、放送事業というのは非常に社会的責任の重い事業です。皆さんも今日からその社会的使命の一翼を担うことなったわけですから、まずはこの事はしっかりと自覚して頂きたいと思います。また、放送事業というのは、報道機関であると共に、様々なエンターテインメントを提供し、人の心を豊かにする文化事業でもあります。沢山の人々に様々な情報や、感動、生きる勇気を伝えることができる非常にやりがいのある仕事だと思います。放送人としての責任を自覚しつつ、人の心に響く番組作りに携わって頂きたいと思います。

次に、放送業界を取り巻く変化についてお話します。日本経済が勢いを失い、広告費全体は減少し続けています。またデジタル化により、スマートフォンなど多くのデバイスが登場し、ビジネス環境の変化が急速に進みつつあります。こうした変化を受けてテレビは「斜陽産業」だという声も一部でありましたが、私は決してそうは思いません。

アメリカの調査会社によると、アメリカの 2011 年の広告費はテレビを中心に伸びており、中でも TBS と深い協力関係にある CBS テレビの利益は前年比 30%の上昇を達成し、破竹の勢いだそうです。CBS が強い理由ははっきりしています。ドラマを中心とする番組などのコンテンツの強さにあります。ケーブルテレビが何百チャンネルあろうが、スマートフォンだろうが、ネットだろうが、逆にメディアの数が増えれば増えるほど、売り場面積が広がり、収益が上がっているという事です。CBS のムンベス会長は「放送業のモデルは 5 年前よりも確実に良くなっており、今後も成長が続く」と豪語しているそうです。当然の事ながら、強いコンテンツを持つ社は大き

な収益を上げ、そうでない会社は淘汰されるという、厳しい現実があるのも事実です。アメリカでは強いコンテンツを持つものと持たざるものの二極化が、より顕著になってきています。日本でも早晩同じようなことが起きていくでしょう。要するに、全ての収入の源泉であるコンテンツが強くなければ、生き残る事はできないということは言うまでもありません。TBS は今そうした危機感を社員全員が共有し、懸命にトップ奪還を目指しているところです。

またデジタル化による環境変化に的確に対応するため、ネットやモバイル向けのビジネスも積極的に推し進めています。こうしたビジネス展開をより拡大するため、昨年、日本経済新聞社と業務提携を行い、スマートフォン向けのコンテンツ開発や、アジアにおけるビジネス展開もスタートしています。こうした分野でも、皆さんが新鮮な刺激を与え、より活性化してくれる事を期待しています。

最後に、今月から井上会長が民放連会長に就任されました。民放連会長社として、より一層良質な番組を制作し、社会的な責任も果たしていかなければなりません。皆さんは入社にあたって放送に対する様々な抱負を述べられました。どうかその熱い情熱と志を決して忘れないで下さい。そして、常に社会に目を向け、人々がどの様な思いで暮らしているのか、自らの触覚を張り巡らし、視聴者ニーズを汲み取ってほしいと思います。放送メディアは皆さんが想像する以上に社会的責任を持っています。そのことを謙虚に認識して、業務に邁進して頂きたいと思います。皆さんに大いに期待しています。共に頑張りましょう。

■入江社長訓話

皆さん本日は入社おめでとうございます。皆さんを貫禄と余裕でお迎えするのが私の役割ですが、実は私も昨日 4 月 1 日付けで TBS ラジオの社長を拝命したばかりで、今日のスピーチが社長としての初仕事です。おそらく皆さん以上に顔はこわばっているでしょう。今日の日は忘れられない日になるかと思います。

さて、TBS は昨年開局 60 周年、言わば還暦を迎え、今年は新たなスタートの年となるわけですが、その記念すべき年に入社された皆さんへの期待は大きなものです。私のように 30 年以上も同じ会社で同じ仕事を続けると、どうしても感覚的に麻痺したり、平衡感覚が失われたりしがちです。ややもすると TBS の常識が世間の非常識、或いは業界の常識が世の中の非常識と言われても気がつかない危険もあります。大体現場でうまくいかないケースはリスナーや視聴者の目線を失うこと、独りよがりになることから始まります。皆さんは今日入社されましたが、先週まではリスナーであったり視聴者であったりしたわけですから、今 TBS の中で最も視聴者やリスナーに近い存在です。これから様々な職場につかれると思いますが、皆さんが感じる新鮮な疑問や問題意識は是非宝物として大切に心にとどめておいてほしいと思います。いずれ必ず個性や感性となり、番組作りや他の仕事に活かされる時が来ると思います。それが、TBS を正しい方向に導くことになると思います。今後、放送という仕事は社会から見ても責任も厳しく困難も増えると思いますが、その分、大変やりがいのある仕事だと思います。それは変わらないことだと思います。

皆さんの大きな未来に期待を込め、私からのご挨拶といたします。私も 1 年生、新米です。50 歳を過ぎピカピカではありませんが、同じ 1 年生として皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

■井上会長

皆さん、入社おめでとうございます。私は入社 50 年目です。半世紀も会社にいますが、思い返すと入社した時は、不安の方が多かったように思います。皆さんも、希望や不安、両方あると思いますが、私も最初は大変な所に来てしまったなぁと思ったものです。私は一度も番組を作ったことがなく、編成や営業で番組を作る方々の手伝いをしてきました。この会社はとても面白い会社です。営業にいた頃は、色々辛いこともありましたが、それを乗り越える時が面白くてやってきました。自分が面白いと思って関わった番組が今も 2 本ぐらい続いていますが、いい番組につきあえたのがとても楽しかったわけです。

当時、テレビやラジオという放送業には、作家になりたい人、画家になりたい人、音楽家になりたい人など、色々な人がたくさんいました。毎年芥川賞の候補になる人もいれば、有名なルポライターになった人もいます。放送業だけではない、他のこともやりたいという人がいっぱいいました。ただそんな中でも、放送は多くの人々に影響を及ぼすことができる仕事です。本は一人で書けますが、本を出しても 100 万部は売れないし、影響を与えられる人数は知れています。放送はグループ作業ですが、影響を与える人数はものすごい数になります。その分責任も大きいですが、自分がプロデューサーになった番組や、取材したニュースの一つ一つがたくさんの人に影響を与えるわけですから、とても面白い仕事です。

今後、配属された番組が運良く当たっている時に大事なことは、番組がなぜ当たっているか、どこが面白いのか考えることです。家族や友達に何がヒットしているのか、何が面白いのかを尋ね、意見を聴いてもらいたいのです。当らないときも同じです。最初は忙しくてできないかもしれませんが、考えるということを心がけてやることが大切です。そういったことを習慣付けていないと、いつまでも現状維持になってしまいます。心がけて意見を言っても、当面はとりあってもらえないかもしれませんが、めげないで、いつも考えてほしいと思います。

ニュース報道一つ一つをとっても、本当にいいんだろうかといつも考えてほしい。議論をして、みんながイメージトレーニングしていくことが、報道人にとって大事なことです。複数の観点から常に観ていく。マスコミに身を置く皆さんはどこかでそのことを思い出して、自分なりの頭で考えることを訓練してほしいと思います。今までは学生として学んできましたが、今後は義務がつきまとうことになります。仕事をしなければなりませんが、どうやったら楽しくできるかを考えてほしいと思います。つまらなく思える仕事でも、こうやったら面白いんじゃないかと、前向きに考えれば、仕事は面白くなります。幕末の高杉晋作が「面白きこともなき世を面白く」と言ったそうですが、これは面白くない世を自分は面白く生きたとも取れるし、面白くない世を面白くしたとも取れます。皆さんは若いのですから、世の中を面白くするという気概を持って頑張ってほしいと思います。

以上